



令和2年 2月 6日

ご関係の皆様方へ

大阪市立東三国小学校
校長 原 雅 史

東三国小 「主体的・対話的で深い学びのある授業」研究

第4回 全市公開授業のご案内

余寒の候、貴職におかれましては、ますますご清祥のこととお喜び申しあげます。平素は本校の教育活動にご理解・ご協力を賜り、まことにありがとうございます。

さて、本校は今年度3回の全市公開授業を行ってきました。先日3度目の公開授業ではある程度形ができあがり、スーパーバイザーの小畠先生からも「子どもたちのがんばる姿が本当に増え、来年度も期待できるね。」と過分な評価をいただくこともできました。

今回は1年間の研究の締めくくりとして、東京大学名誉教授、元日本教育学会会長、学習院大学特任教授の佐藤学先生をお招きしまして、私たちのめざす「主体的・対話的で深い学びのある授業」の研究、学び合いの授業がどこまで子どもの心の中に広がっているのかということについて、ご指導ご教示をいただこうと考えております。申すまでもなく、佐藤学先生は、日本を代表する教育学者であり、年間数十日以上世界各国の公開授業に招請され、指導困難な学校の授業改革や学校改革に成功させるなど国際的にもご活躍されています。また佐藤学先生は沖縄の学校を何度も訪問し授業改革を推し進め、学び合いに夢中になる子どもを増やした結果、全国学力調査で最下位であった沖縄県の順位を大きく向上させてきました。

大阪で佐藤学先生に会えるのも滅多にないことですが、大阪市立小学校の授業を視察されるのもほとんど初めてのことなので、この機会にぜひ多くの先生方にお越しいただき、佐藤学先生のお話を聞きながら、これからの大坂の教育について皆様と学び合うことができたらと願っております。

記

1 開催日時

		実施日	中心授業	スーパーバイザー
済	全市公開授業	1月29日(水)	1年生国語「歯がぬけたらどうするの」	小畠 公志郎
第4回	全市公開教育授業	2月20日(木)	3年生国語「もちもちの木」	佐藤 学

ビデオ授業研究会は年間10回を予定。詳細は別紙をご参照ください。

・スーパーバイザー 佐藤 学 先生 元東京大学大学院教授 日本教育学会元学長 学習院大学教授

著書『学び合う教室・育ち合う学校: ~学びの共同体の改革~』他多数

・スーパーバイザー 小畠 公志郎 先生 元宝塚市立小学校校長 著書『授業づくりで子どもが伸びる、教師が育つ、学校が変わる』など

2 会場 大阪市立東三国小学校 〒532-0002

大阪市淀川区東三国6-3-24 電話 6391-0366・大阪メトロ御堂筋線「東三国駅」下車 西北へ500m

3 公開授業 時程 (公開授業①②では全学年全クラスの公開を予定しています)

10:00 10:45 11:30 11:40 12:25 13:45 14:30 14:45 15:30 17:00

受付	公開授業 ①	公開授業 ②	休憩	中心授業 3年国語	休憩	研究 協議	スーパーバイザー 講話
----	-----------	-----------	----	--------------	----	----------	----------------

4 申込方法 ① スキップメール 大阪市立東三国小学校 教頭 千葉 法幸 まで

② FAX 後のページのFAX送信票でお申し込みください。

「主体的・対話的で深い学びのある授業」づくり

学びの共同体研究プロジェクト

1

ご参加いただいた先生方

所在地	人数	所属
長崎県	1	小学校
広島県	1	小学校
岡山県	3	小学校
香川県	1	小学校
和泉市	1	小学校
枚方市	1	小学校
寝屋川市	2	小学校
吹田市	11	小学校
高槻市	4	小学校
堺市	1	小学校
大阪市	24	小学校
大阪市	12	中学校
大阪市	4	教育委員会
大阪府	1	大学
兵庫県	1	大学
京都市	1	大学生

この1年間、3回の本校の公開授業にご参加いただいた先生方は左記の通りとなります。誠にありがとうございました。地元の大阪市の先生方よりも、大阪府、他府県からの先生方が多いのも本校の公開授業の特徴です。また、大阪市の先生方におかれましても、年次研でも研究指定校の公開授業でないにも関わらず、完全に「学びたい」という気持ちだけで来られているということに、改めて深く感謝を申しあげる次第です。

本校の研修会にご参加いただいた先生方には、感想文をお願いしているのですが、その一部を紹介いたします。

「本日は本当にありがとうございました。低学年の子どもでも、あれだけ静かに学び合っているを姿見て、感動しました。私の学校の子どもと全然違います。」

「はじめ見たとき、先生方の声が小さく、テンションも低くくて、元気がないなあと思っていたのですが、

あとの協議会で、あえてそうしていると聞き驚きました。教師のテンションの高さが、子どもを騒がせてるということを学ばさせていただきました。本日はありがとうございました。」

「4月から主体的・対話的で深い学びの授業をしないといけないと、いろいろ本などを読みましたが、今いち具体的にどうしていいのかがわからなくて困っていました。しかし、本日東三国小学校の授業を見て、「目から鱗」でした。これが、新学習指導要領が求める授業だと、心から実感しました。本日は参加して本当に良かったと思います。ありがとうございました。」

「今日は、1年生の国語の授業を見させていただいたのですが、私の授業とあまりに違っていて本当にびっくりしました。授業者は児童イスに座り、授業中1回も立つことなく、もちろん板書をすることもなく、静かに語るように授業をされていました。ペアで音読を何度も何度も繰り返し、そのあと児童に「何か気になることある?」「おとなりの人と聞き合ってね」とやさしくたずねると、こどもたちはみなボソボソと小さなこえで話し合っていました。教師がほとんど教えていないのに、1年生のこどもたちでもあんなに学ぶんだと、この授業を見るまで想像もつかなかったのですが、こんな授業が本当にあるんだと…。本日は本当にありがとうございました。また次回も参加します。」

「私も授業では子ども同士をつなげようとしていたのですが、なかなかうまくつながらなくて困っていました。しかし、今日の授業を見て、逆だったと思いました。つまり、授業のために子どもを繋ぐのではなく、子ども同士がしっかり繋がっているからこそ、学び合う授業ができるんだと実感しました。問題に行き詰った子が気軽に隣さんに「ここわからへん、教えて」と。また、少し集中が切れている男の子に、隣の女の子が「ちょっと、ちゃんといや!」と声をかけたり、教室のそこかしこで子ども同士がしっかり繋がっていることを見

て取ることができました。子どもを繋ぐことの大切さを改めて知りました。」

「授業後の討議会がとても素敵でした。今まで見てきた討議会では、授業者の先生に対して、意見や質問が多く、途中で見ているのもつらくなるような討議会ばかりでした。しかし東三國小の討議会は全然違って、授業者の話はほとんどなくて、子どもの学びの様子や、どのように対話してたのかなどが、細かく報告、協議されていました。これなら、授業者は責められるのではなく、うまく言えないのですが、むしろ見ていた先生方が授業者を助けるような協議会で、学校全体で、授業者と子どもをやさしく包み込むような温かさがあるような感じでした。ありがとうございました。」

などなど、ご記入いただいた先生方、改めて深く感謝申しあげます。

2

「深い学び」をもとめて（その2）

前回の公開授業の案内に掲載できなかったものの続きを記載します。

（前回に記載したもの）

- 1 新学習指導要領では、なぜ「主体的、対話的で深い学び」のある授業が求められているのか
- 2 従来の学習指導要領とは、どこが大きく変わっているのか。
- 3 「主体的・対話的で深い学び」を実現する3つのポイント
(1) 有意味学習

（2）オーセンティック（真正）な学習

1) 文字通り、その教科の真正なところを学び合うことで、深い学びに向かうことができます。例えば、国語（文学）であれば、文学を学ぶとはどういうことなのか、ということを捉えるところから始まります。文学を学ぶということは、自分とは違う世界に接する、自分とは違う世界があることを文学を通して知り、最後は文学そのものを「味わう」こそが真正な文学の学びと考えられています。そのためには、子どもを何度もテキストに出会わせることが重要です。逆に、

「主人公の気持ちを問う」

「作者の意図を問う」

「理由をたずねる」

などをして文学を解釈したり、教師の読みを子どもに押しつけるというようなことをしないようにしなければなりません。テキストを何度も読み込み、自分が読み取ったことを他者と比較したり、すり合わせたりしながら、再びテキストに戻っていくことで、はじめて文学の深い学びは確立していきます。

2) 先述の奈須正裕先生は、「具体的な文脈や状況を豊かに含み込んだ本物の社会的実践への参画として学びをデザインする」ことで、深い学びにつながると述べています。例えば算数で割り算を学んだあとで、割り算の練習問題、応用問題をするだけでは決して深い学びには向かいません。現実社会はもっと複雑で、本当に目の前の課題が割り算で解決できるのかが問われます。

ここのところを勘案しないと、例えば「60人乗りのバスがあります。140人を運

「どのくらい必要ですか？」という問い合わせに対して、「2と3分の1台」などと平気に答えてしまいます。実際社会はさらにややこしくて「140人の子どもがいます。これからバスに乗って出かけます。バスは60人乗りで利用する高速道路の制限速度は時速80キロです。バスの運転手さんの平均年齢28歳です。バスは何台必要ですか？」すると子どもたちは、140を60で割ったり、80を引いたり28を足したりと、混乱していきますが、それが現実です。今までの問題はあまりに「問題」でした。

（3）明示的な指導

今まで、一定オーセンティックな授業、学習体験はしているものの、それを科学的な概念や方法論の視点から自覚的に振り返って比較・統合し、さらに道具化して自家薬籠中のものとし、いつでも自らの意思で自在に操れるようになるまでの段階的で明示的な指導を、受けさせていただきました。

たとえば、今まで「理科の実験」の授業などは多くの学校で行われてきましたが、そこで終わっている、実験が安全に正確にできたことで満足していることがほとんどではないでしょうか。もちろんそのことも重要であることは間違いないのですが、それでは実験が単なる作業になっています。実験を通して学びをどう構築していくのか。炎色反応の実験なら、いくつかの物質を燃やして反応する炎の色を観察するだけでなく、少なくともビデオでその様子を録画しておき、よりきめ細かく観察し、場所毎によって異なる炎の色や形に気づき、さらには他の班と比較することで、その仮説が正しいのか論じていく。そうすることで、はじめて実験が深い学びに繋がるのではないかでしょうか。

4 「深い学びに誘う課題」の研究は十分におこなわれているのか。

深い学びになるかどうかは、やはり課題の質・レベルが最も重要と思われます。今までたくさんの授業を観察してきましたが、課題のレベルが低過ぎたり、簡単過ぎて失敗する授業をたくさん見てきました。課題が簡単だと、子どもは一瞬で解いてあとは雑談、ふざける…みんなの授業はどうでしょうか。逆に、クラスの誰も解けないような課題を出すと、子どもはペア、グループになって、解けるまで一生懸命取り組みます。「基礎がわかっていない子に、難しい課題は…」という声も聞こえますが、それはオーセンティックな学びの視点に立つと問題ありません。授業者が、学力レベルとは無関係なレベルの高い課題、あるいは応用問題でありながら、気がつくと基礎的な課題を繰り返し行っているような課題を準備すればいいだけの話です。

例えば、3年生の算数で深い学びを誘うこんな課題はいかがでしょうか。

「1～9のカードのうち2枚を使って、2桁の数をつくります。その2枚をひっくりかえして、もう一つ2桁の数をつくります。その2つの数うち、大きな数から小さな数を引きます。するとまた2桁の数が出てきます。その2桁たの数を、さきほどと同じように引きます。これをできなくなるまで行います。すると、ある「秘密」がみえてきます。どんな「秘密」でしょうか？」

これは私が実際に本校で行った問題で、子どもたちは問題を見るなり「この問題の意味がわからん！」と唸りました。しかしへペアやグループで聞き合っていくことに慣れている子どもたちなので、少しずつ、そこかしこで、こうかな、ああかなとつぶやきが広がっていきました。頃合いを見計らって、「わからない人？」とたずね、一人の子を指名し「じゃあ、あなたがわかるところまで、聞かさせて」とお願いすると「たとえば、7と3のカードを選ぶと、73ができる、それをひっくり返すと…」どうもこの子は、トランプのようにカーネ

ドの表と裏をひっくり返していたのでした。今の発表をもとに、もう一度各班で聞き合ってごらんと言うと、ごによごによと各所で聞き合いが始まります。「73と37じゃないかなあ。」「あ、これなら引ける」「えーと、筆算すると…」「39だ！」

もうここまでくると、各班で2桁の引き算が行われはじめていきました。すると、各所でえー！という感嘆が聞こえてきました。そう、最後まで計算すると全て答えは「9」となるのです。そのとき思ったのですが、子どもって一度答えが出ると、もう他のパターンでやろうとか、やる気がどうも失せるようなのです。そこで「本当にいつでも9かなあ？違うときもあるような気がするよ」なんて言いますと、「え？ほんま？」クラスの全員が色々なパターンで計算を始めます。だいたいここでチャイムが鳴って終わります。最後に、実はいつも答えは「9」なのですが、なぜ「9」になるのかなあ、この秘密を解き明かすことが今日の宿題ですよ。というと、子どもたちはもう休み時間のときから、この秘密の謎解きに夢中になっていました。

実は、この問題には「隠れたねらい」があるのですが、おわかりになりますでしょうか。この問題、習ったばかりの2桁引き算の計算を、ものすごくたくさんしないと、秘密が見えてこないのでした。しかも、その引き算は全て繰り下がりになるのです。

単純なドリルで計算力を高める方法もありますが、大方の子どもは、単純な学習にはすぐに飽きるし、やってほしい子どもほど、基礎の反復練習を嫌がります。それが、この問題では、知らず知らずのうちに、たくさんの練習を行っているのです。

深い学びは、まさに「深い学び」で、浅い教材研究では到達することは難しいと思います。日々の教育活動、学習指導で大変ご多忙とは思いますが、それに流されることなく、1日に1問は、せめて1週間に1問は、このようないくつもの伏線が張られた問題で、子どもたちを深い学びに誘ってみませんか。

3 おわりに

先日、ある人との雑談の中で「原先生の学校経営は学習に偏っていますね。」と、ややクレティカルに言われたことがあります。私も、「そうなんです。自分でも少し変人なぐらいに偏っているんです。」と笑いをまぶしながら答えたのですが、聞く人によっては気分を害するような会話だったかもしれません。しかし私はそう言われて、むしろ嬉しくもありました。なぜなら、学校に関わるものとして、自分の教育活動が他でもなく『学びに偏っている』というのは、ある意味ほめ言葉に近いものがあると、私は考えているからです。

本校の教育目標は『全ての子どもの学びを保障し、生きる力を育む』です。この実現のために、「学び合い」と「インクルーシブ教育の充実」を2大教育中心柱として据え、多くの方からご鞭撻を受けながら、日々もがき、研鑽を重ねているような状況です。もちろん、様々な学校行事、生活指導、地域連携などなど、今の学校が担うべき要素は他にも無数にあります、「学び」「インクルーシブ教育」がその中心にあることは間違いないと思います。そのど真ん中を、これからも、脇目もふらず、まっすぐに歩んでいきたいと思います。

本校の公開授業では、今全ての教員が日々、深い学びをつくるために、主体的で対話的な授業づくりを実践しているところであります。

もちろん、まだまだ完成形には至っておりませんが、公開授業に参加された先生方とともに、これからも探していくこと、学び合っていくことができればと願っておりますので、ど

うぞ第4回公開授業にご参加くださいますようよろしくお願い申しあげます。

3 研究概要

- (1) 全体研究テーマ 「すべての子どもの学びを保障し、生きる力を育む」
今年度東三国小学校では、教科・領域は決めないで、
「協同学習」「学びの共同体」を研究テーマにして、各個人が個人研究の
テーマを設定します。
- (2) 個人研究：各自がこの1年間研究したい教科、領域を自由に選び、研究を進める。

4 研究計画

月	日	曜	公開教育	全市公開	ビデオ研	校内研修	講師	ビデオ研の担当学年、研修テーマなど
4	1	月			A 1	校長		学びの共同体とは
	10	水			A 2	校長		協同学習の授業
	23	火			1			2年・4年・5年
5	24	金			2			1年・3年・5年
6	7	金			A 3	校長		公開授業に向けて
	20	木		1			小畠 sv	5年社会 6/14にプレ研究会
7	5	金			3			2年・4年・6年
	24	水			A 4	校長		1学期を振り返って
	25	木			A 5	校長		1学期を振り返って
8	21	水			A 6	校長		2学期に向けて
9	20	金			4			1年・理科4年・5年
10	10	木		2			小畠 sv	10/4にプレ研究会
	25	金			5			2年・3年・6年
11	15	金			6			1年・3年・5年
12	6	金			7			2年・4年・理科
	25	水			A 7	校長		2学期を振り返って
1	17	金			8			1年・4年・6年
	29	水		3			小畠 sv	1/24にプレ研究会
2	7	金			9			2年・理科4年・6年
	20	木	○				佐藤 sv	2/14にプレ研究会
3	6	金			10			1年・3年・理科
	25	水			A 8	校長		1年間を振り返って

(1) 全市公開「教育研究会」（年1回）

年に一度だけ行う公開授業で、1年間の総まとめ的なものです。スーパーバイザーには元東京大学院教授の佐藤学先生にお越しいただき、スーパーバイズしていただき、さらには講演会も開いていただける予定です。大阪市内の公立小中学校では久しぶりの講演となり、協同学習の提唱者として、新学習指導要領に向けて、これからどのような準備をしないといけないのか、今の教育の最先端の話なども聞けることかと思います。ぜひ多くの皆様のご来場

をお待ちしております。

1) プレ研究会

- ①管理職、教務主任、研究部長、教科主任、学年教員などで実施
- ②「授業デザイン」を中心に教材、課題、思いなどを語り合う時間とする

2) 当日のタイムテーブル

10:30 受付開始 来校者は講堂などで待機 SVのお迎え。

3限・4限 公開授業 (全員、どちらかの授業を公開する)

校長はSVと共に各教室を回ります。

(昼休み SVから直接授業のコメントをもらう)

(授業クラスは、机椅子を体育館に運び込む 参加者人数による)

13:45 中心授業 (他学級は、給食後すぐに下校)

14:30 終了 児童はすぐに下校 (机・椅子はそのままで)

14:45 研究協議 (グループ→全体)

15:30 スーパーバイザー講話

(記録は、教務部。授業者は簡単な振り返りコメントを後日出す。)

(2) 全市公開「授業研究会」(年間3回 SV=小畠公志郎)

概要は同上です。年3回同じスーパーバイザーにご来校いただき、継続的、計画的な指導をいただく予定です。

(3) 校内授業研究会(ビデオ研)

1) 2つの学年が合体(チーム学年)して、ビデオを使って研究協議会を行う

2) ながれ

- ① 4月1・2日のチーム学年会で1~11の研究会の授業者を決める
- ② 授業前に全教員に授業デザインと座席表を配布
- ③ 授業当日は全教員が見学しても良いことにする。(学年教員はできるだけ参加)
- ④ 各自分が自分の授業をビデオに撮る(斜め前から)
- ⑤ 後にビデオ研究会
 - ・授業した教室のモニターを使う
 - ・チーム学年+担外等で、ビデオをみながらゆっくり授業について語り合う

【研究協議会での約束】

1. 授業づくりの奥深さ、面白さを共有し、自分がその授業から何を学んだのか、自分が真似できることは何かを語る。
2. 決して授業の批判はしない。「自分なら…」という発言もできるだけ控える。
3. 授業の中で、授業者が「聴く」「つなぐ」「もどす」をどのように展開していたかを語る。
「聴く」 …子どものつぶやきをひろう
「つなぐ」 …子どもの発言つないでいく
「もどす」 …全体が行き詰ったときなどは、教科書の音読、グループの交流に戻す
4. 同僚が授業を公開したことに対して感謝の念を込めて、全員が話す。
5. 「子どもの学び」についてたくさん語る。
- できない子どもだけでなく、がんばっている子ども、関わっていない子どもに注目する
- どこで学びが成立したのか丁寧にひろう

「〇〇分ごろに、Aさんの△△という発言でBさんの表情が変化してたよ。」
「◇◇分に、Cさんのわからないを聞いてDさんが説明をはじめ、自分の勘違いに気づいてたよ」など

3) 当日のタイムテーブル

14:35 5限 授業終了

15:00 3か所(低・中・高) それぞれビデオ授業研究会開始
(当日、どこで行われているかは、職員室でおたずねください)

17:00 終了

4) 教育センターの指導主事(当該教科)を招聘(SVでも可)

5) 各チーム学年で、ビデオ研修会の記録を行う。

⇒校務支援PC内にフォルダをつくり、定期的に「研究部通信」を発行する。

⇒研究部通信をもとに、年度末に研究紀要を作成する。

(4) 教材研究日 毎週金曜日(15:30~17:00)

1) 他に行事などがない場合は、教材研究に集中して取り組む

2) 1週間の振り返り、翌週の教材研究などを行う

3) 各個人で実施してもいいし、チーム学年で行っても良いものとする

FAX送信票

FAX番号 06-6391-1998

全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込 参加申込書

送付先 大阪市立 東三国小学校

教頭 千葉 法幸

TEL 06-6391-0366

FAX 06-6391-1998

送付元	所属名(学校名)			
	ご担当者			
送付期日	各公開授業・研究会の3日前まで			
件名	全市公開授業・ビデオ授業研究会の申込			
参加者	職名	お名前	参加希望日	懇親会○

懇親会のご案内。

研究会の終了後、東三国駅近辺で佐藤学先生を囲んで懇親会を行います。参加ご希望の方は、上記の懇親会のところに○印をお願いします。

【お問合せ先】

大阪市立東三国小学校

(電話) 06-6391-0366

教頭 千葉まで